企業様 ご担当各位

K's DESIGN

PORTFOLIO

平成 24 年 5 月 22 日現在
片桐　靖之

～おことわり～

当方 HD の破損によるデータ消失の為、今ポートフォリオにおける P1～P24 は、過去プリント出力された作品を再スキャニングし、掲載しております。これに伴う画像劣化等お見苦しい点を、何卒ご容赦くださいませ。

左と中央はコンペ最終選考2案まで残るが惜しくも敗退、かなり泥臭い案に決定していた。右案はその経験を活かしたのだが最終選考すら残らなかった。

A全ポスター (2001.3)

(2001.4)

(2001.4)

車内吊りB3ポスター

B2ポスター

A4チラシ

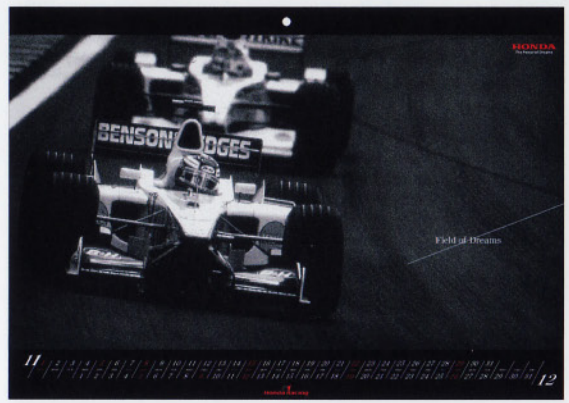
クリアファイル

新聞5段広告

「リソーの森」と「しんがかい通信」のスケジュールの谷間にも、このようなアイテムを受注。リソー教育担当者からは信頼を得ていた証拠。当初はポスターのみのオーダーであったが、あれよあれよとアイテムが増えた。効果のほども来場者が超満員となり、リソー記録を更新したそうだ。

	表紙	
1/2月	3/4月	5/6月
7/8月	9/10月	11/12月

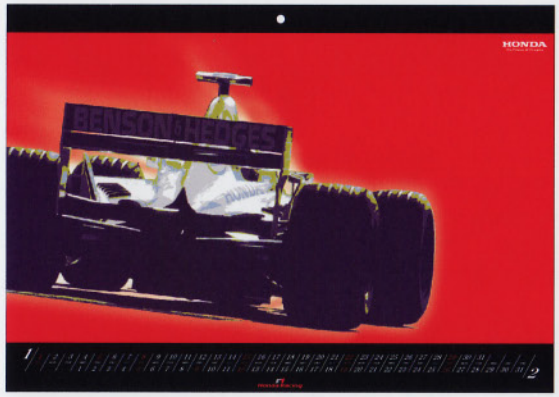
ホンダ・カレンダーコンペには、一般車種用、F1用、cart用の3アイテムに大別れており、車種の認知性は別としてもF1とカートの違いが分かりづらいことから、どの部分で差別化を計れるかが焦点となった。カートではアメリカ特有の派手さを際立たせるための原色での表現を設定し、F1ではヨーロッパの地域性、つまり奥深い歴史感と山岳地帯の森林に覆われた陰陽な雰囲気を重ね合わせ、モノトーンをテーマに掲げた。この作品はF1の車体のシャープさを感じる写真を数百点の中からチョイスし、さらに写真素材を意識的な陰影の強調（例えば、中央写真の3/4月では、手前と奥を意識的に濃淡をつけることで、より距離感を醸し出す）とフォトトリミング（7/8月：原盤には写されていない視点の先を補完すことで意図を強調する）により、ドライバーの闘争心とホンダ・スピリッツに形容される『強い意志』を表現した。コピーライトにおいても、企業フレーズ『The Power of Dreams』から始まり、全体を通してDREAM含む熟語でつながりを持たせ、ドライバーの夢、ホンダの夢、ファンの夢とする、見る者への共感を促す仕組みとした。

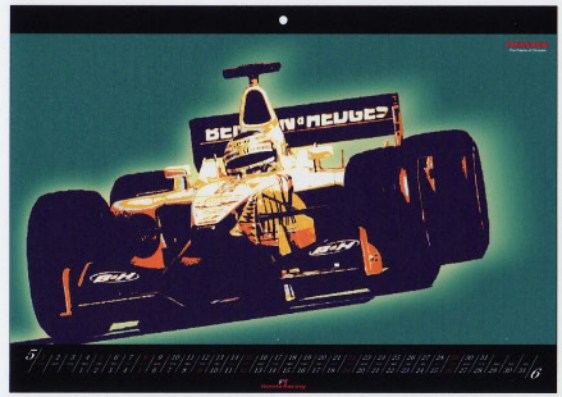


	表紙 (B3)	
1/2月	3/4月	5/6月
7/8月	9/10月	11/12月

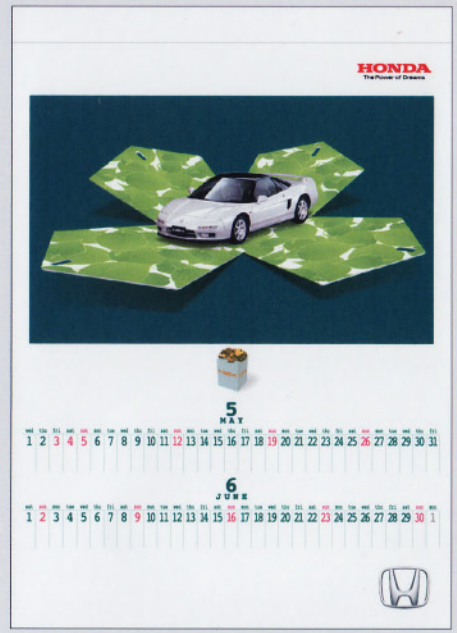
※未提出作品（独自案）

前項の陰陽とは対照的にF1そのものの華やかさをテーマにした別案。補色を使った色構成はありがちであるが、シンプルなポスタリゼーションがかえってモチーフそのもののポテンシャルを引き出す。カートとの違いを敢えて挙げるなら、補色にベタベタを使わずどちらかを淡く、もしくはハズすことで、カートとは違うハイセンス?な派手さを表現つもりだが、どうだろうか。表紙はめくった時のインパクトをつけるために、敢えてモノトーンとした。



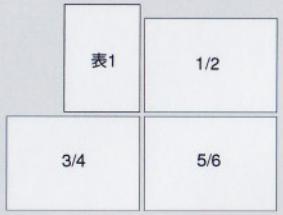


本田技研工業株式会社／車種カレンダーコンペ提出作品（(2001.4)



5社競合、最終選考2案までに選出。
自身はデザインカンプ作成としてこの作品に参加。
決定案は惜しくも同社同時提案作品に決定。
両案とも白場の使い方で高い評価を得ていた。
余談だが、その後のオデッセイCMでの白場を基調としたものや、ギフトボックスから覗くアイデアは、
単なる偶然とは思っていない。

表紙	1/2月	3/4月	5/6月
	7/8月	9/10月	11/12月



※以下ページ省略

TOSHIBA プロジェクター／カタログ（1999.9）
AD&D&画像処理
illustrator 5.5 & photoshop 4.0

1/2ページは、クライアントの意向により自社会議室と社員を使用。表紙は、入稿前日に上層部チェックで変更となる。全体の整合性が修正できず、高級感を意識する押さえたデザインが、そのまま釈然としない印象となった。

※商品カットはアタリ

A全ポスター

A4変型タイヤカタログ

A4リーフレット

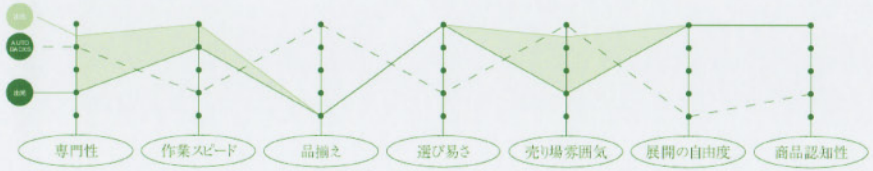
プレゼン（下項）より派生した上記作品群。他にもタイヤPOPなど2アイテムあり。プレ段階のツールデザインは外注。プレボード含め、すべてを自身がデザイン／ディレクション。

ツール展開プレゼンパネル

出光	出光と他社の“販売店”としての特徴比較	AUTO BACS	[対処法]
△	専門性	○	方針書の3.「店頭アドバイス&セールスツールの活用」の遂行、社員の知識と意識の向上、プロフェッショナル化（専門知識パンフ・テクニカルビデオ・講習会等）
○	作業スピード	△	社員のプロ化に伴うさらなるスピード化。商品数や売り場規模対に結込み客の多重複は少ない→スピードの維持。
×	品揃え	◎	多すぎる品揃えは、原因的なユーザーレベルでは迷いの原因という側面がある。商品数をしぼって必要性能を満たした商品展開の方が、却って選び易いという方向性をアピール。
◎	選び易さ	△	
△	売り場雰囲気	◎	様々な物が楽しめる量販店と比較して、GSの性質上、閉塞感・殺風景は安全面や必要性から仕方ないところであるが、タイヤをゆっくり見てもらうには、ある種の温かにぎやかし（POPだけの一方通行的な告知ではない物）が必要。
◎	展開の自由度	×	量販店では、一ブランドが自社製品のみをアピールするには困難であるのに対し、国に全国3000店でスペースが確保されており、一商品に対する占有スペースを最大限活用出来る。
◎	商品認知性	×	タイヤ交換頻期は消費者サイドでは判断つきにくいものであり、タイヤのような買い替えスパンの長い商品は、常日頃からの商品認知が最重要と言われる。そのような意味で、量販店においては消費者の能動的行動に依るところが大きく、認知機会が少ない点は否めないはず（現体広告があるがだが、それも消費者判断になる）。その点、ガソリン給油時に交換期間をチェックでき、認知機会を常に展開できるGSは、ある側面的には非常に恵まれているとも言える。

⇓

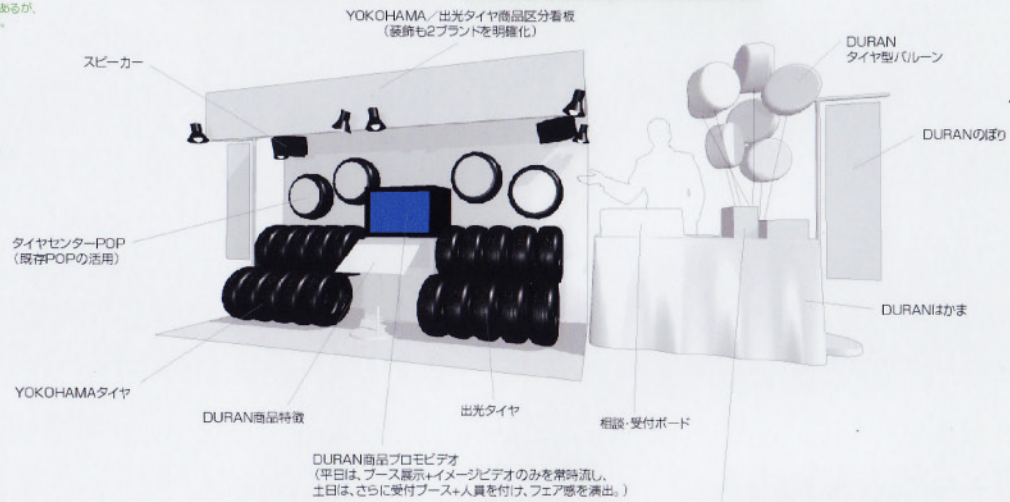
現状比較と本企画による最終到達点



ブース展開主旨

スタンド特有の閉塞感・殺風景なイメージ（特に壁面）を、タイヤをゆっくり見てもらえる環境の構築。単なるPOP表示だけではないアクティブなにぎやかしが必要。
合わせて、圧倒的なスケール感で、給油毎に認知されるよう、常に五感から訴えかける。

YOKOHAMA　IDEMITSU TIRE DURAN MU:TECH

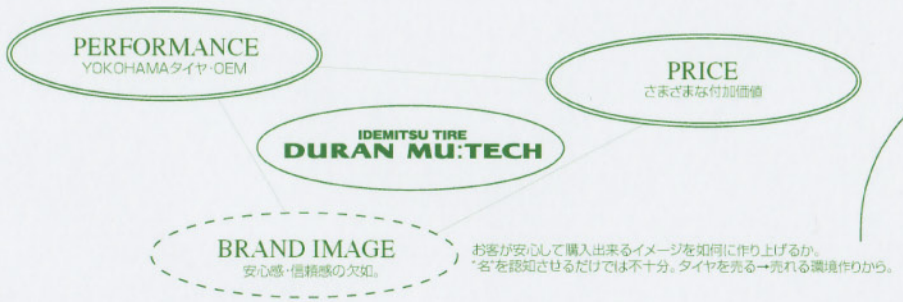


パンフ・チラシ・プレミアム等

- 子供が喜んで車窓などに貼りたがるようなオリジナルキャラクター・ステッカー

イメージ

- オリジナル・ティッシュボックス→車の後部座席でアピール
- タイヤPOP変型（ドリンク受け、玩具など）
- タイヤ型スイングPOP（吸盤付き）→車内で揺れる度にエコロジー／エコノミーの文字が見える。



お客が安心して購入出来るイメージを如何に作り上げるか。
“名”を認知させるだけでは不十分。タイヤを売る→売れる環境作りから。

欠落したブランドイメージを如何に高めるか？

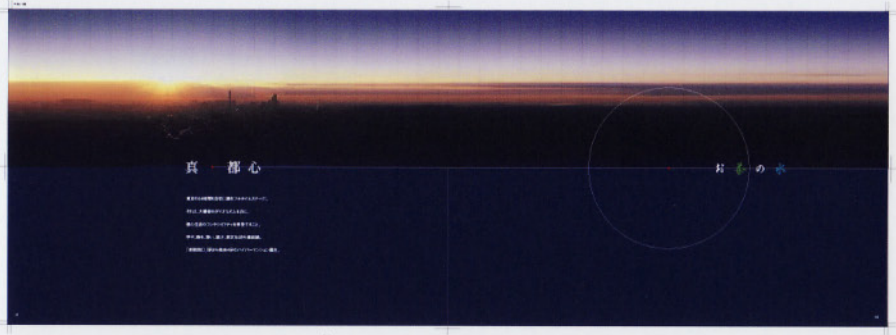
YOKOHAMAタイヤ・OEM

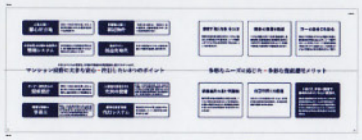
を最大限活かさなければ技術面・性能面→安心感・信頼感という意味でのブランド力は穴埋め出来ない。

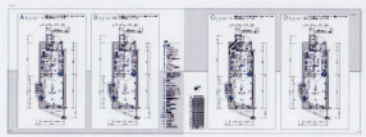
ここでブース等二分割の意味合いがポイントとなる。
YOKOHAMAタイヤと同配列でデコレーションすることにより同商品系列的アピール（実際そうなのだが）をすることで、ここでいうブランド面での欠損イメージを補うのがねらい。
（提携規定の問題は？）

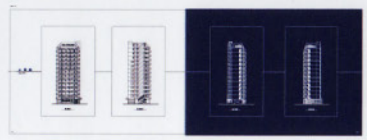
		表4	表1
1	2	3	4
5	6	7	8

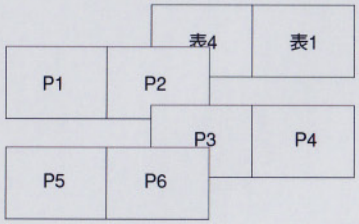
一番のポイントは、お茶の水という立地を、地理的な中心地に目を付けたところにある。都心といえば新宿などの新都心を想起するが、地理的もしくは地図的な位置で言えば、お茶の水か真の都心である。全ページにわたって山手線の円と、お茶の水を中心点としたモチーフを象徴的に簡略化し、見る者へイメージを印象的に残す仕組みとした。単にお茶の水という部分的なメリットの説明になりがちであるが、大都市・東京の骨格を想起させることで、グローバルな視点で捉え、視覚的にあえてワイド写真を多用し、大都市の中心地「お茶の水を」へ結ぶ意図を狙った。

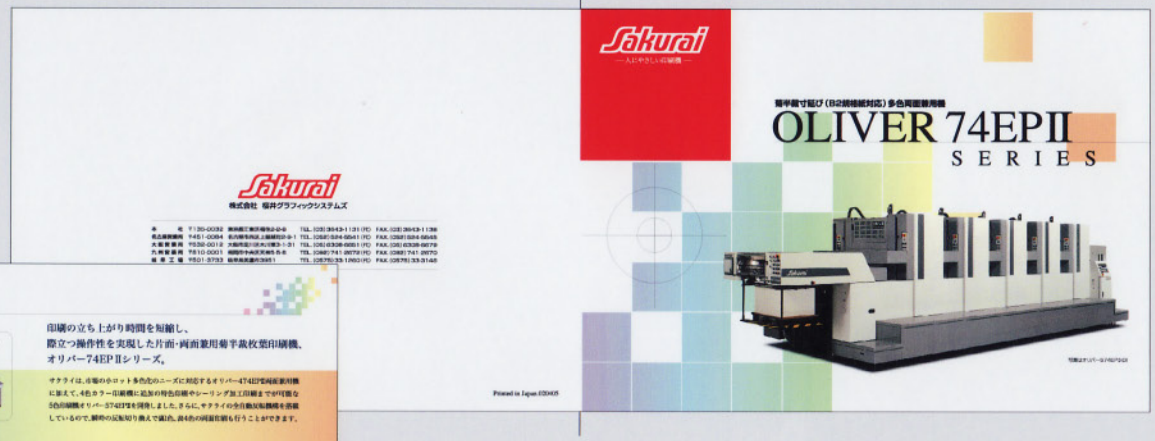


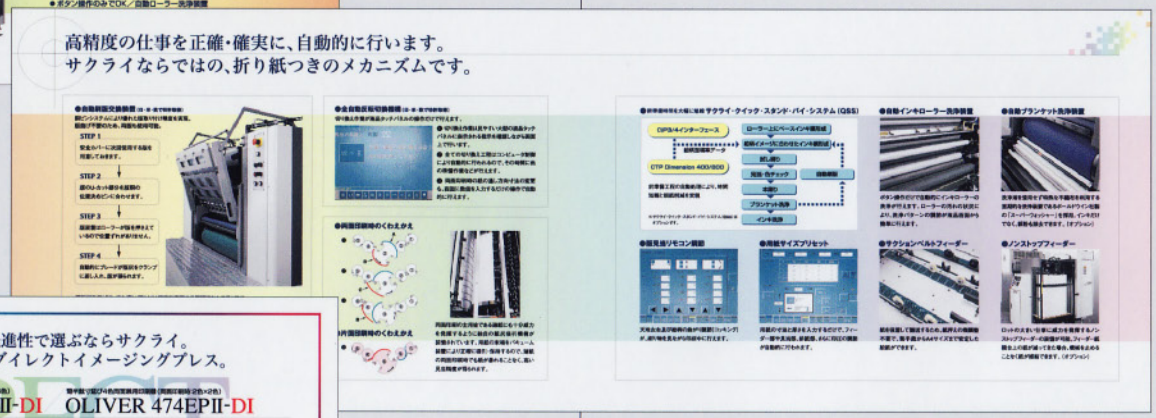












泥臭い前回カタログを、『とにかくカッコ良くしてくれ』という切実な要望。
満足された出来になったかは未確認だが、一人のデザイナーとして身に
詰まされるクライアントの願いである。

デザイン→コンセ→フィルム出力→下版まで一連のオペレーションまで担当。
この作品は［クレンジング+アクアフォース］で、その他［エッセンス+ホワイトニング］の2パターンを朝日新聞、中日新聞、NICOS、会社生活各紙へ掲載。
計8アイテムで汎用展開。

社員のコミュニケーション・ツールという意味合いが強い社内報であるが、実質的には“株主”に向けた広報誌として機能させている。進学塾の中でも極めて固定化した富裕層をターゲットとしており、万人受けする雑多な広告を嫌う為、口コミなどのバイラルマーケティング効果を狙ったツールとして、そのクオリティを要求されている。
年4回発行。退社までの1年半の間、デザイン、ディレクションをクライアント直に担当者と共に制作。
※入稿データの為、表1／4意外は2色刷りのBL版とM版になっている。

リソー教育グループ 社内報
リソーの森
Vol.24
2007 SUMMER
第8回 トーマス・コンサート REPORT
2007.3.31 Sat サントリーホール
RISO ON TIME
23期大成功に向けて
リトルシニア関東遠望・リトルリーグ東京遠望
「2007合同開幕式」REPORT
マルチライブ放送個別指導予備校
「スクールeステーション」絶好調!
「2007年度 入試分析報告会」REPORT
リソーの森 Vol.24
リソー教育グループ
R100

リソー教育グループ 社内報
リソーの森
Vol.21
2006 SUMMER
第7回 トーマス・コンサート REPORT
2006.12.2 Sat Hamamatsu オーケストラホール
特集
「松山バレエ団「くるみ割り人形」クリスマスプレゼント公演」
REPORT
リトルシニア関東遠望・リトルリーグ東京遠望「2006年度 開幕式」
REPORT
日本エデュネット「ハロー!ステーション」開校!
リソー教育グループによる「最新入試分析報告会」が大盛況!
リソーの森 Vol.21
リソー教育グループ
TOMAS CUP
TOMAS DAY
R100

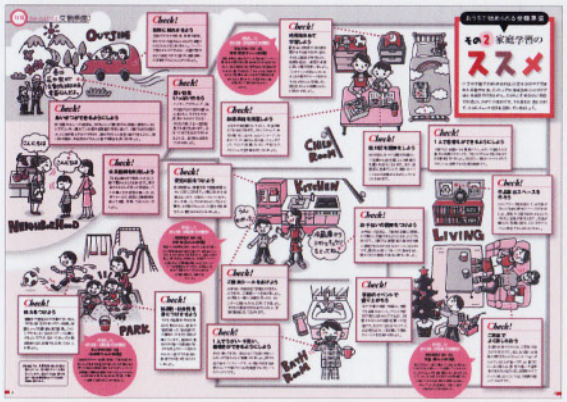
リソー教育グループ 社内報
リソーの森
Vol.22
2006 AUTUMN
RISO ON TIME
22期下期スタート
—業界再編の時代へ—
特集
Welcome! New Classroom
TOMAS・伸芽会 新宿校開校!
「リボンの騎士 ザ・ミュージカル」REPORT
「ウィーン少年合唱団 特別公演」REPORT
リトルシニア関東遠望 夏季大会
「TOMAS CUP 2006」REPORT
リソーの森 Vol.22
リソー教育グループ
0120-66-4756
R100

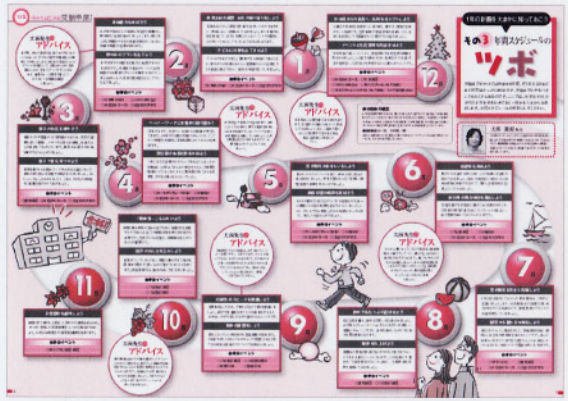
The 8th Tomas Concert

The 8th Tomas Concert

リボンの騎士 ザ・ミュージカル
続々開校! hello!
e station
eラーニング教室 本格始動!
最新入試分析報告会
新しい形のミュージカル!

夢
世界へ羽ばたけ!

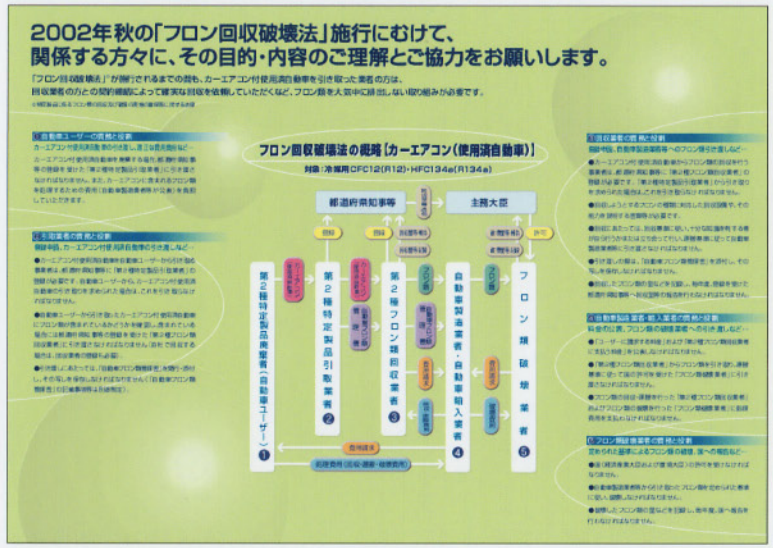




前項同様、年4回を「リソーの森」と交互に受注頂いていた。ほぼリソー教育の専属デザイナーといっても良い。基本構成は、リソー教育出版編集局より提示頂き、デザイン性はほぼ自由に対応。レギュラーの仕事は本当に有り難い存在。表1～4は4c、中面は2c（分解bl/m版データ）。

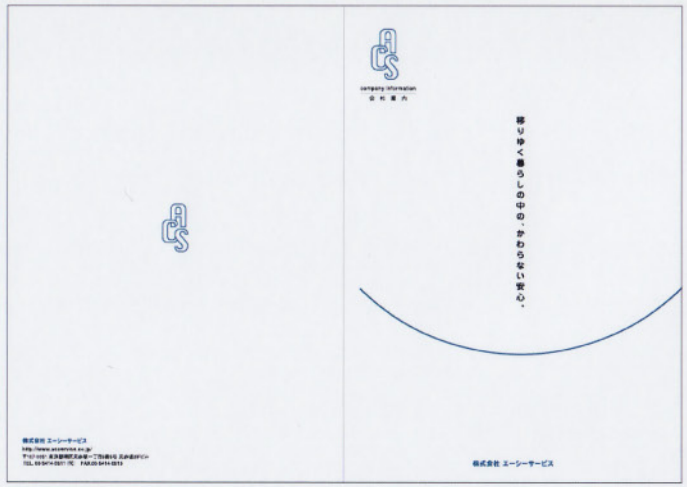
発注から仕上げまで約1週間で納品。社内用でオンデマンドということもあるが、かなり簡易的に制作した。日頃の信頼から仕事の発注が生まれる。この点はうれしい限りだが、実務者には苦しいスパン。

公共告知パンフ／A4見開き表・中



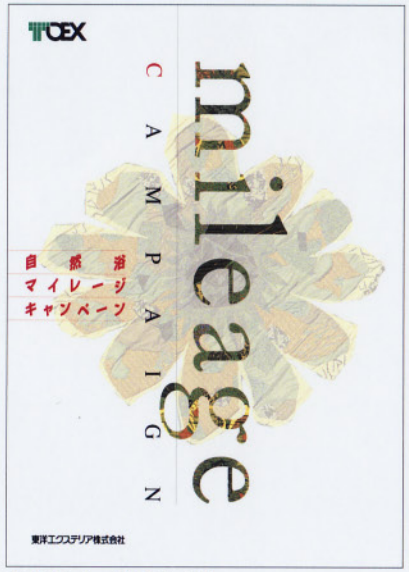
学会チラシポスター

展示会告知チラシ／表1・中面



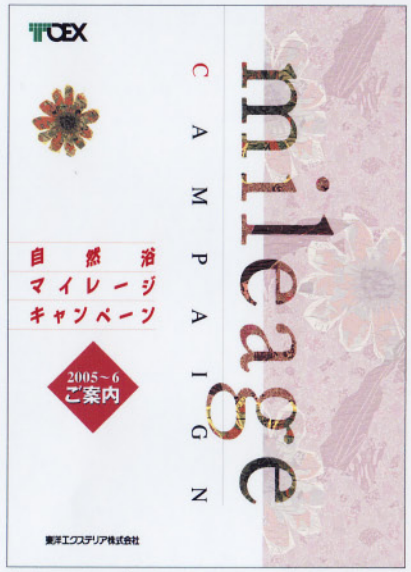
会社案内／表・中

B4カタログ表紙



キャンペーン・クリアファイル

キャンペーン・ガイド



キャンペーン・パンフ

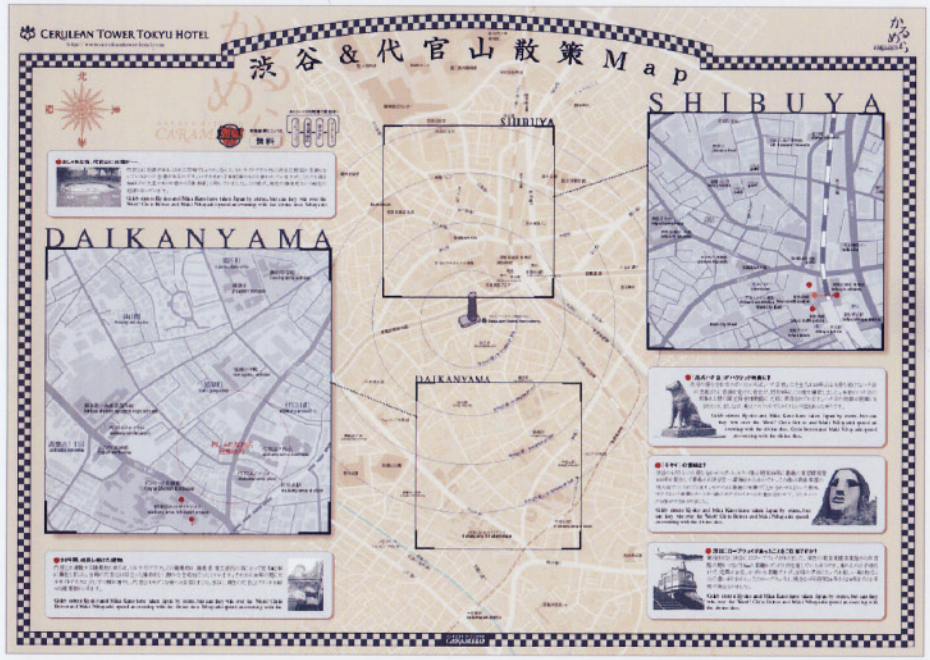
企業ロゴ以外は、ほぼすべて作成。完全オリジナル対応というスタンスで認識されると、単価の高い仕事に繋がっていく。デザイナーは、日々の仕事が営業ツールとなる。

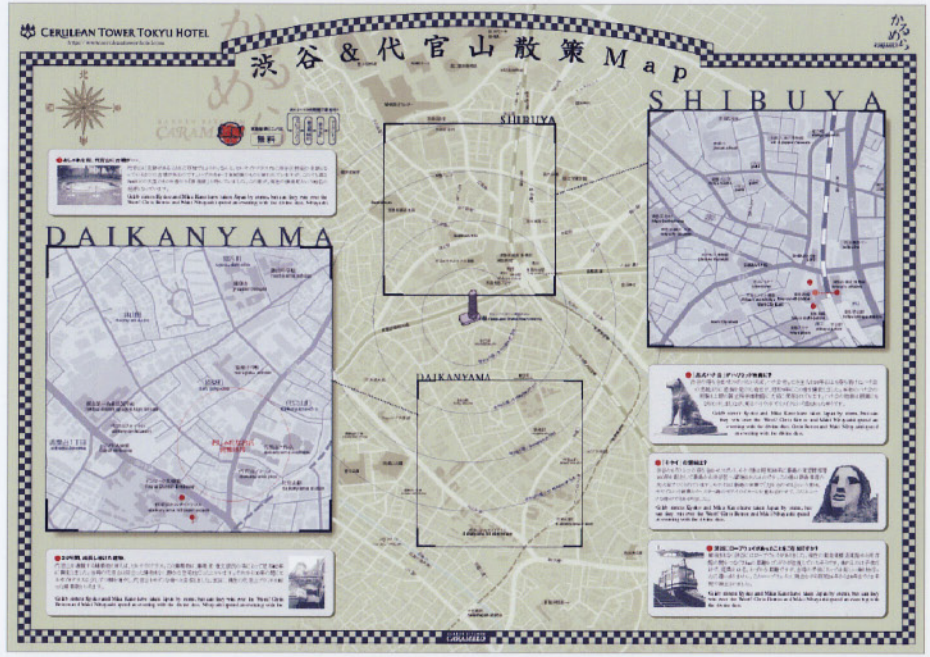
A4（P80）カタログ表紙

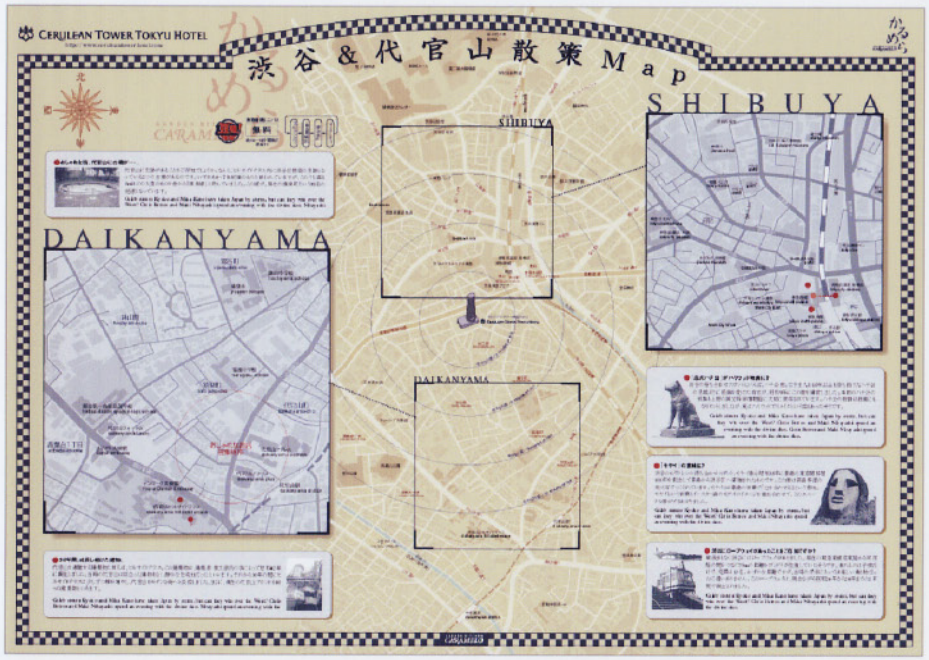
A4カタログ表紙

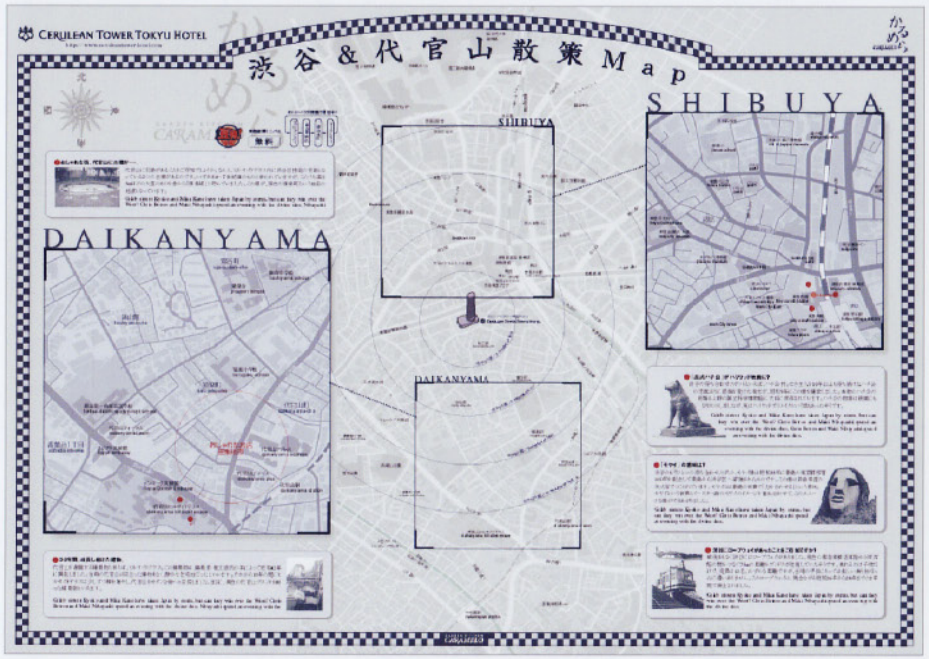
ランチョンマット・デザイン＆四季カラーバリエーション

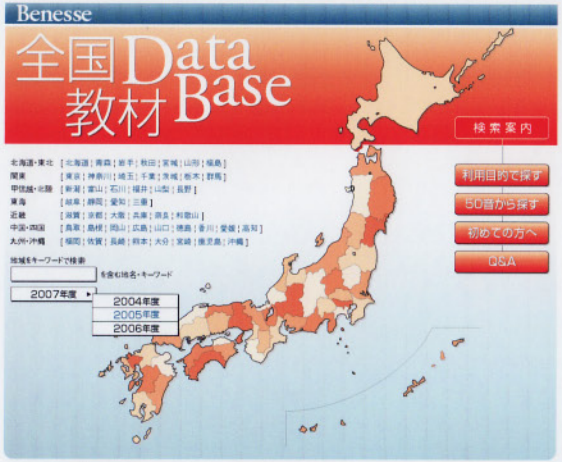
知っている方もおられるかも。



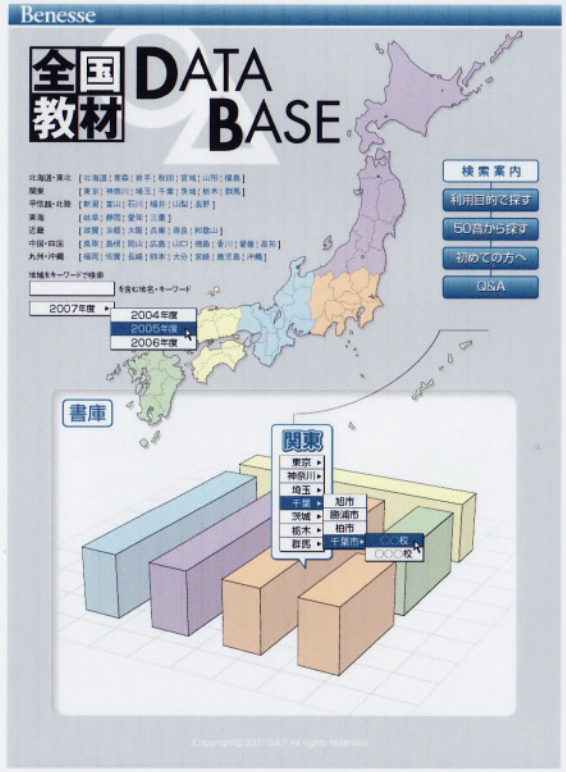








自社のターボサーバーを有効利用するためのプレ・デザイン。webをはじめとするこれらのインターフェイスは、自身の必須課題でもあり、今後積極的に手掛けたい領域である。web展開においての思考原理は、紙媒体でもなんでも変わらないと認識しており、何が必要で、何が便利か。また、何が不要なのかは、webに精通する以前の問題である。



正面

斜観

■バキューム半立体案

■ボード+バリボテ案

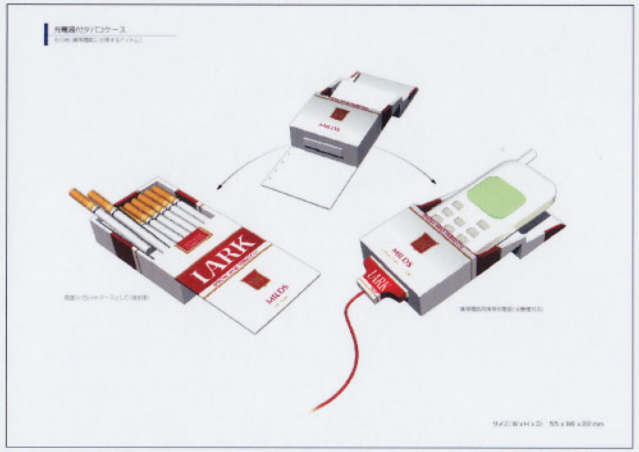
■ボード組立案

■ムービングピクチャ案

■ボード型抜き案

とにかくインパクトのある巨大なPOPを映画館フロアに置きたいとのクライアントの意向。自身は単に大きさよりも動きや構造で目引かせるという視点から試行錯誤した案。結果的には自社同時提案のタテ2500×ヨコ3500mmの横断幕に決定した。結果として、デザイン処理や小細工に凝るより、圧倒的な大きさに勝る物は無いということ。しかし予算や構造的リスクがあるにせよ、他への汎用と言う点ではチャレンジも必要である。

サイズ（W x H）：1,000 x 2,500 mm



LARKONE1カートン用 展示・陳列台POP提案（2001.1）

Atype

梱包パーツ
・本体　×1
・中骨　×1
・後付階段×1
・ボード　×1

仕上りサイズ（W x H x D）：120x 430 x 230 mm
本 体（W x H x D）：120x 280 x 230 mm
ボード（W x H）　：200x 150（+50）mm

Btype

梱包パーツ
・本体　×1
・中骨　×1
・後付階段×2
（又は×5）
・ボード　×1

仕上りサイズ（W x H x D）：127x 430 x 245 mm
本 体（W x H x D）：127x 280 x 245 mm
ボード（W x H）　：200x 150（+50）mm

日産純正カーオーディオカタログ（1998.6）
デザイン・ディレクション&画像作成
illustrator 5.5 & photoshop 4.0

表1	1/2	3/4
	5/6	7/8
	9/10	11/12

※以下ページ省略

プレ用に可読性よりインパクト重視に作成。別案で白地の通常パターンを作成、そちらが採用された。可能性を提示することは結果的なスムーズさに繋がる。表紙は上記を採用。

IDOキャンペーンポスター（1994.7）

案内パンフ

太陽石油／B5カレンダー7P（1993.5）

太陽石油／B5カレンダー7P（1994.5）

ロイヤルホームセンター／B4チラシ（2004.4）

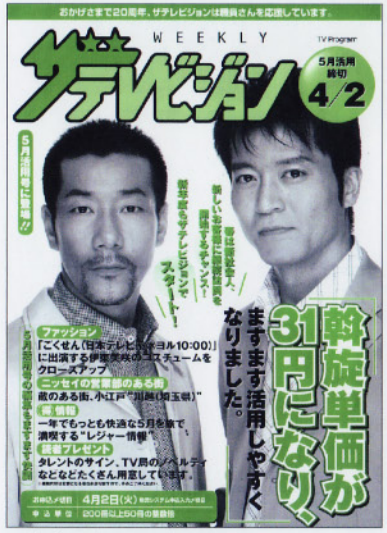
宝酒造店内ポスター（1993）

ネッスル／A4リーフ（1992）

宝酒造／A4リーフ（1993）

東芝デジタルメディア／A4リーフ（1999）

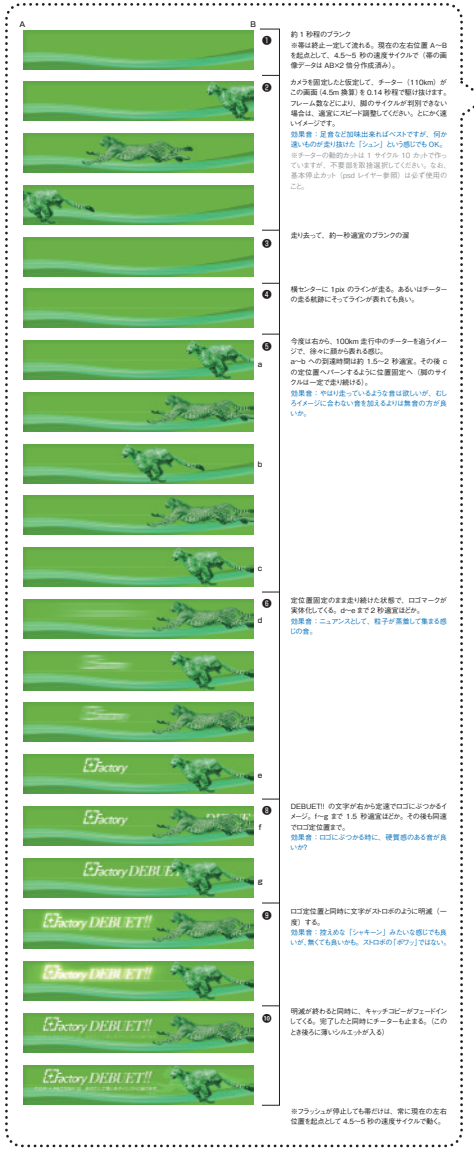
東芝事務機器／A4リーフ（1999）



日本生命／斡旋B4チラシ（1999）

ホンダプリモ三和／B4折り込みチラシ（2000）

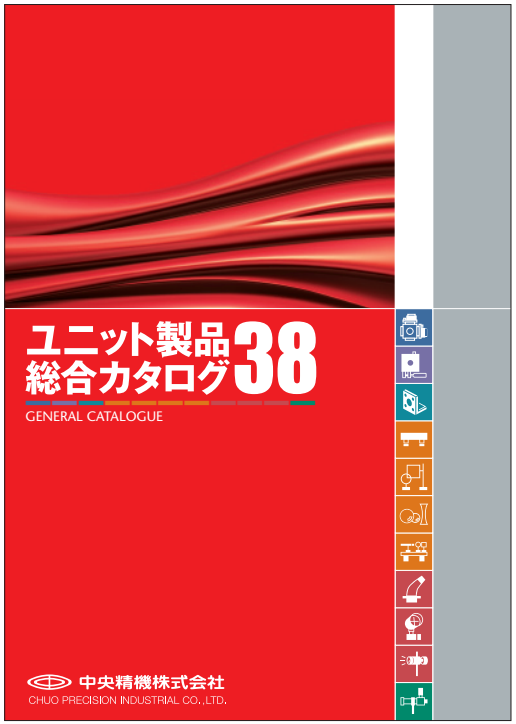
Top FLASH movie 指示書



A案／展開

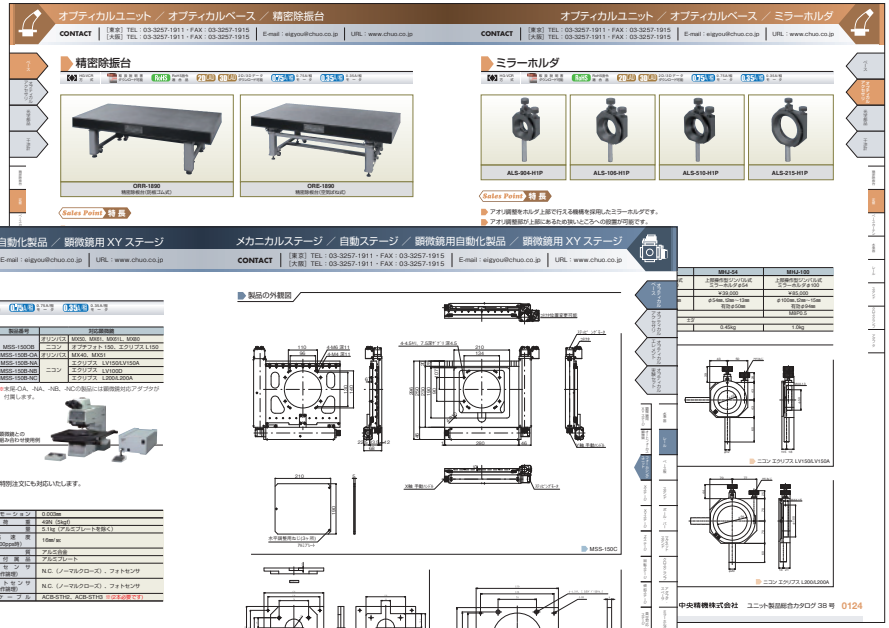
B案

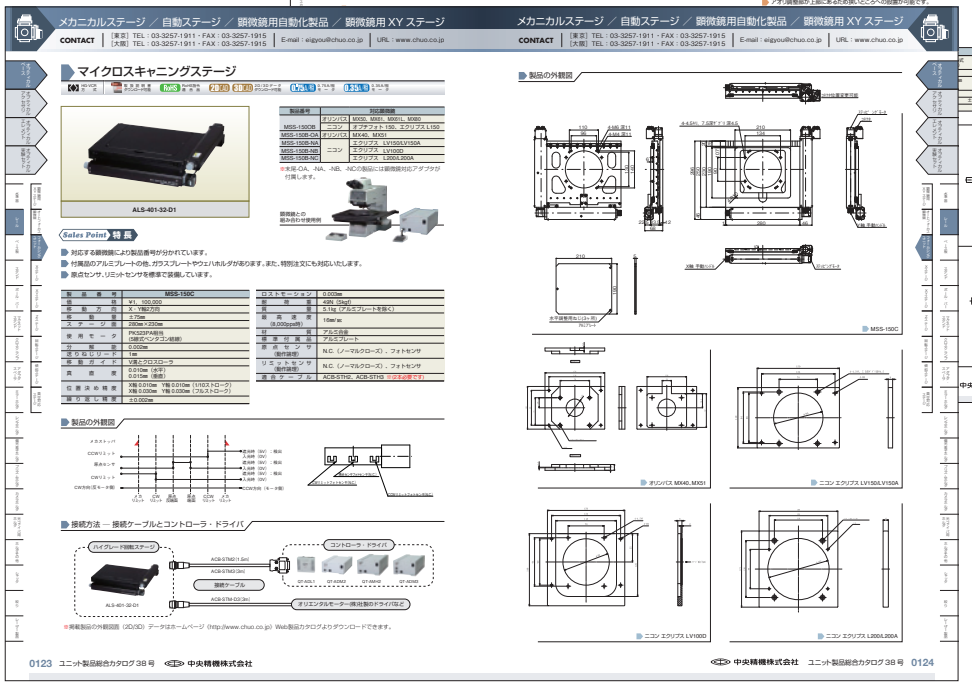
C案



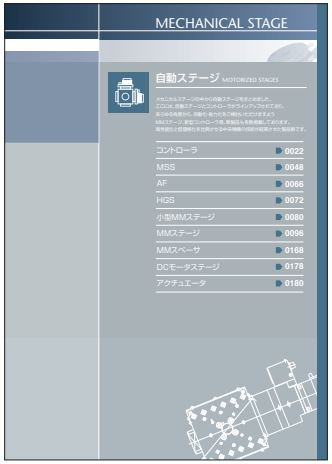
表紙
年間カタログ P1200 デザインフォーマット作成。
（他ページ中略）

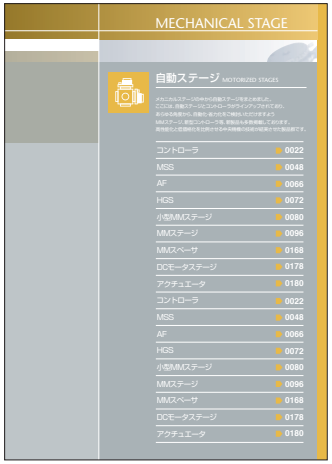
中カテゴリー中扉

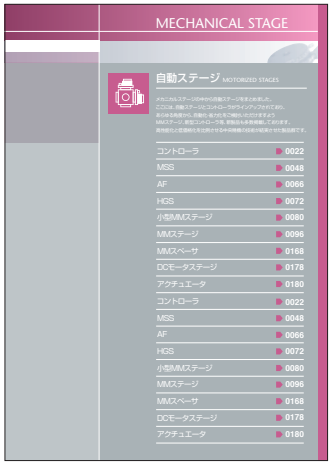




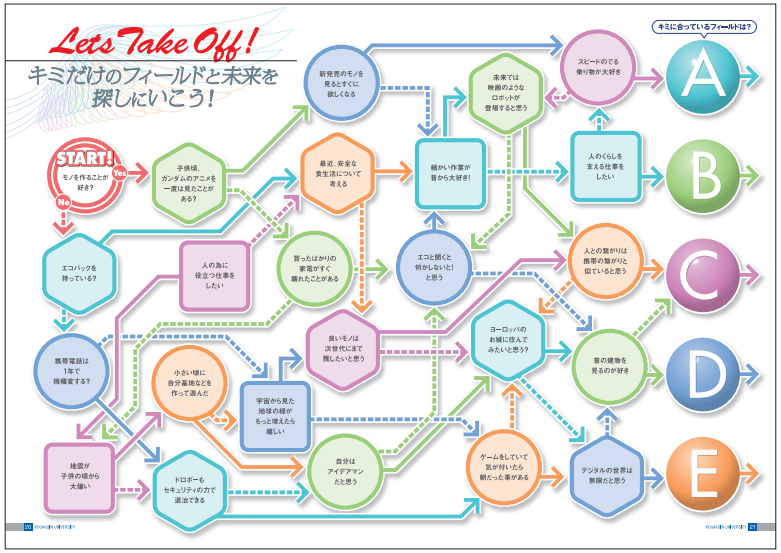
小カテゴリー中扉群



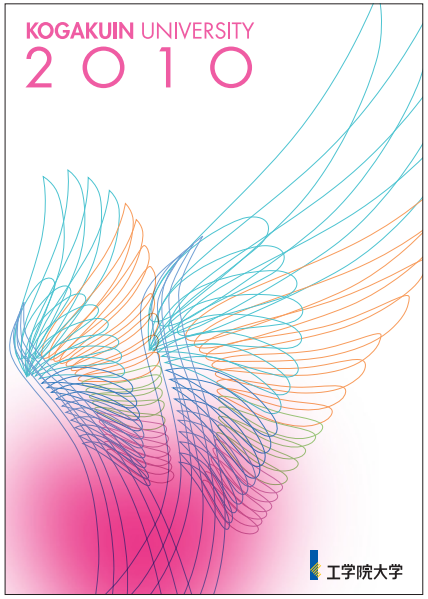


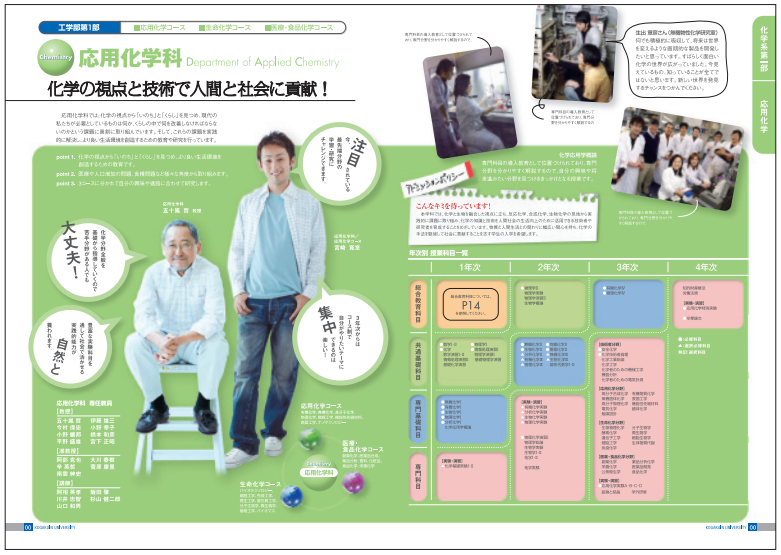


KOGAKUIN UNIVERSITY
2010
工学院大学


Let's Take Off!
キミだけのフィールドと未来を
探しにいこう！
キミに合っているフィールドは？
START!
Yes
No
A
B
C
D
E

ここから始まる⑤つのフィールド
A 機械系 Mechanics
B 化学系 Chemistry
C 電気系 Electricity
D 建築系 Architecture
E 情報系 Informatics
KeyWord


KOGAKUIN UNIVERSITY
2010
工学院大学


工学部第1部
応用化学科 Department of Applied Chemistry
化学の視点と技術で人間と社会に貢献！
大丈夫！
自然と
集中！

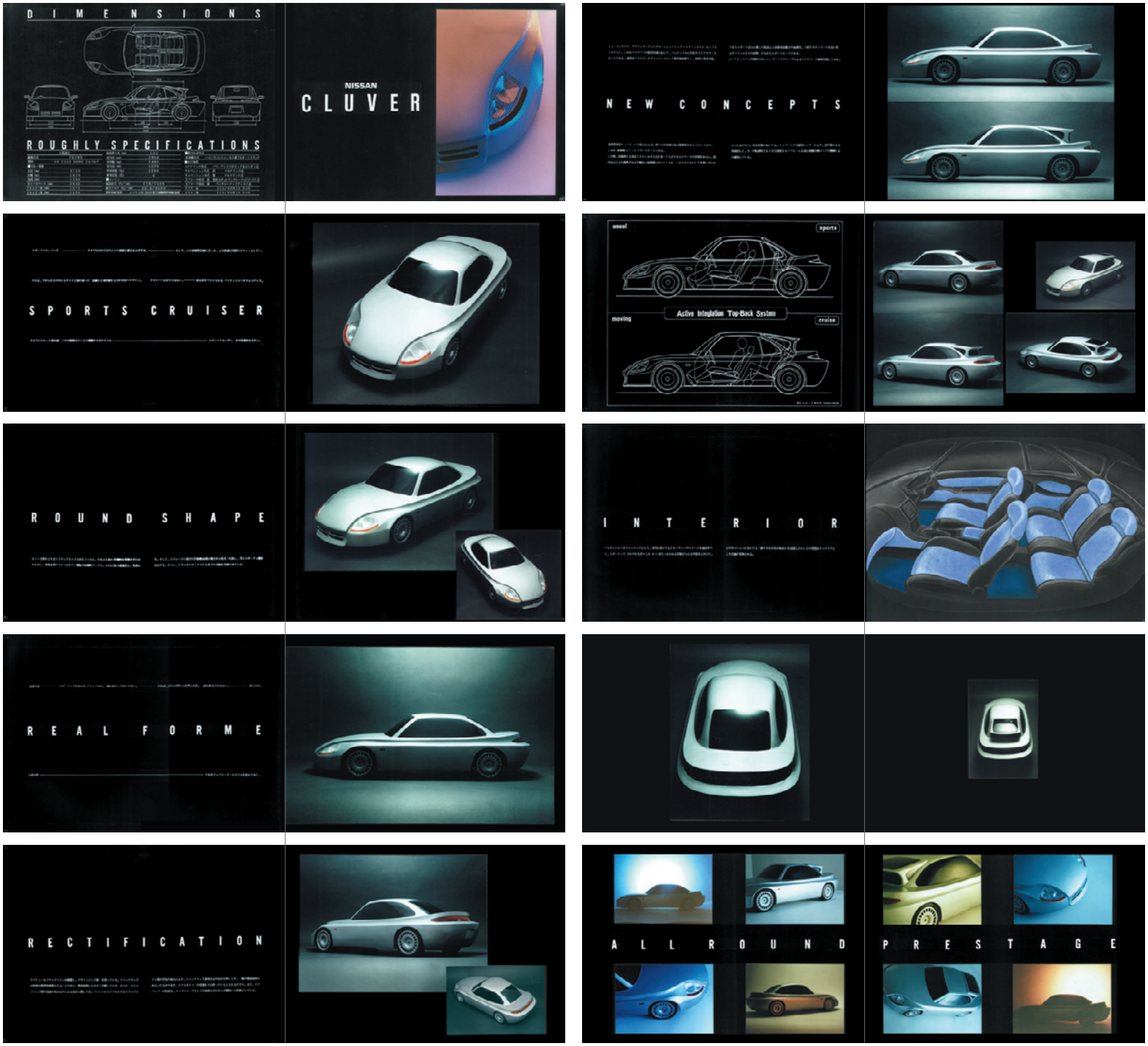
研究室CHECK!
工学部 第1部 応用化学科
細胞工学研究室
有機合成化学研究室

K's DESIGN

PRIVATE WORKS

日産自動車
カーデザイン自主プレゼンカタログ

1995 年にオリジナルカーデザインとして日産自動車・座間テクニカルセンターへ自主プレゼンする。
1/10 モックアップ作成から撮影まで、B4見開きカタログにまとめる。
デザインポイントは、車体側面の流麗なエッジラインであり、光反射のリフレクション効果でスポーティー感を醸し出す手法を武器に、G デザイナーが車業界に一石を投じた形。
1995 年当時、この手法は他では成されていなかったことを、敢えて明言したい。



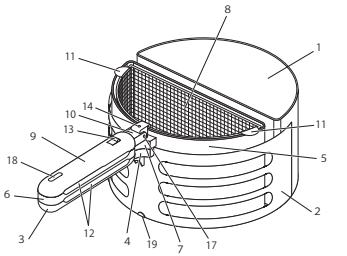
【書類名】　明細書
【発明の名称】　分離操作式調理容器
【技術分野】
【０００１】
本発明は、一般家庭などの調理熱源（ガス、電熱コンロなど）の１口のみを使用し、複数の同時調理に対し複数の分離した調理容器を独立操作させることで、調理時間の短縮、操作性の向上、省スペース、省エネルギー性、器具の費用対効果の向上を図った鍋・フライパンなどの器類の調理器具に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来、調理において熱源利用の調理容器（鍋やフライパンなどの器。以後、容器とも呼ぶ）は、１口の熱源に対し１杯の基本容器（基本構造が１つの器からなる１杯の容器。また、１杯の基本容器内に間仕切りがある場合も含む。例えば、特許文献１～３参照）が占有し、使用していた。
【特許文献１】実用新案公開平６－７５３３４
【特許文献２】登録実用新案第３１００５１６
【特許文献３】登録実用新案第３０７１５４３
以下、上記文献に類似するその他の特許文献。
特許公開２００９－９００７７、特許公開２００７－５８９、
特許公開２００７－３７９３３、
登録実用新案第３１３０９１２号、登録実用新案第３１０３４２１号、
登録実用新案第３１０２２５６号、登録実用新案第３０９７４５３号、
登録実用新案第３０４５１２１号、登録実用新案第３０４３２３７号、
登録実用新案第３０２９４７２号
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００３】
これらは、次のような欠点があった。
従来、１個の鍋・フライパンなどの容器で複数の料理を同時に行う場合、上述したように容器内に敷居を設けるなどしたものがあるが、例えばフライパン型容器（例えば、特許文献１参照）では一体整形された低い敷居を設けたことで、違う調理間で油や汁などの飛沫が混ざり合うなどしたり、調理汁などを別々に注ぐことは出来ない。また、鍋型容器における敷居板取付け型の容器（例えば、特許文献２参照）では、密閉性を欠くことによる漏出で全く違う料理を扱う用途には向かず、或は密閉された容器（例えば、特許文献３参照）でもソースやスープなどの液状物においては別々に注ぐことが出来ないなど、いずれの容器も、同時に２種以上の調理（以後、同時進行調理と言う）を行うには困難があった。これは容器本体が一体式によるためであり、熱源を利用する多くの家庭用調理容器全般に内包する課題でもあった。以下、詳しく説明をする。
【０００４】
ここでは焔り易い様に、僅かな時間の差異で大きく食感が左右される「生麺」を例に挙げ、従来の鍋型容器を用いて同時進行調理の説明をする。
【０００５】
通例、生麺を調理する場合「生麺の茹で上げ用湯煎」と「スープ用湯煎」が必要となる。これは、生麺をおいしく調理する為の「麺を延ばさない」「スープを冷まさない」要件として必須である（必須性は次頁で詳述）。この２つの要件、すなわち煮沸における同時進行調理では、飄ねど通り（A）と（B）の方法がある。（A）は、２個の容器と２口の熱源コンロで並行加熱する方法。（B）は、１個の容器と１口の熱源コンロで麺のみを調理し、スープ湯を給湯ポットなどで併用する方法がある。この時、１口のコンロしかない場合、（A）では対応出来ず、（B）では給湯ポットが無いと対応出来ない。因って、設備

の伴わない個室マンションなどの１口のコンロ使用においては、生麺を始めとする同時進行調理を行うには困難であった。
【０００６】
更に、１口のコンロ使用において、上記の生麺調理における同時進行調理の必須性を、より詳細な生麺の調理手順例を用いて説明をする。
通常、生麺は保存用の粉にまぶされており、調理時に湯煎で茹でると同時に不要な粉が溶解され、これが取り除かれる。この粉が溶解した湯、つまり廃湯は、白濁と粘性を伴いスープ湯には適さない。従って、別途スープ用の新鮮な熱湯が用意されている必要があるが、１口のコンロでは同時煮沸は不可能である。このため、スープ湯の煮沸にかかる所作を生麺で使用した１個の容器で汎用する場合、容器の洗浄作業や新たに煮沸するまでに数分間を要するために、麺が冷めたり延びてしまうなどの弊害を起こす。因って「生麺用」と「スープ用」の湯煎は別々かつ同時に煮沸する必然がある。これは、前項（A）にあたる生麺用に１容器、スープ用に１容器の計２個の容器と、同時煮沸する２口の熱源確保が、最適な生麺の調理・飲食のためには必要不可欠であった。
【０００７】
また、前項（B）におけるスープ湯の煮沸・加熱を代替する手段として、電気給湯ポットがあるが、高額であり、これは使用時の適量分確保を常に気を配る必要があるなど意外と煩わしく、その都度の煮沸・保温維持費を伴うなど非効率である。
【０００８】
また、ガス給湯器の利用においては、給湯蛇口より直接的に盛付けの器へ熱湯を注ぐ行為は、火傷などの危険が伴い、また、水道管より直結的な熱湯をいきなりスープ湯へ使うことは、トリハロメタン残留など煮沸処理しない水道水と比較して健康面での害を増加させ、光熱費の負担も増す。
【０００９】
上記においては、生麺調理における「鍋型容器」の例で説明したが、その他「フライパン型容器」などを含む加熱容器全般においても同時進行調理の必須性がある。以下、フライパン容器で説明をする。全ての料理具材における調理方法と調理時期と進行は、当然各々明確な違いが存在するのは自明として、上述してきた従来にある敷居を設けた１個のフライパン容器と１口の熱源使用では、対する複数の容器と複数の熱源使用に比して、適正な調理が達成し辛いことは容易に推察されるものであり、因って「フライパン容器」などを含む加熱容器全般においても、料理各々を容器別々に同時操作すべき必須性は、更なる調理例を用いずとも「鍋容器」での必須性と同様である。
【００１０】
本発明は、このような従来からある困難な問題を解決しようとするものであり、こと単身者個室マンションなどに多い、狭くて作業性の悪い１口の備付けコンロの調理場においても、同時進行調理を可能とし、様々な料理を効率的に調理するためになされたものである。
【課題を解決するための手段】
【００１１】
そして、本発明は上記目的を達成するために、分離した容器を直火に掛ける様に複数設け、網状（てぼ、揚げアミ、揚げ物ネット、蒸し用目皿など）の着脱できる調理器具を製品や用途ごとに設ける、或は設けない任意性を有し、これら各々が分離操作出来る調理器具である。
【発明の効果】
【００１２】
上述したように本発明の調理器具は、１口の熱源コンロのみの利用においても複数の個々独立した同時進行調理を可能とするため、より様々な料理と使い勝手の良い調理を可能としながら調理時間の短縮と省エネルギー性の向上が図れる。また、機能の集約による簡略化とコンパクト化は、操作性の向上と省器具化、調理時と収納時における省スペース化

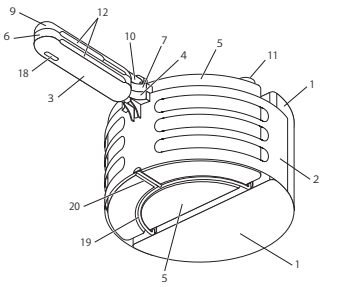
も図れるとともに、器具の費用対効果の向上と省資材化への寄与など、効果の高い調理器具を提供できる。
【発明を実施するための最良の形態】
【００１３】
以下、本発明の実施形態を図１～図１２に基づいて説明する。
【００１４】
図においては、容器１を支持固定する外周板２に取付金具４と取手３からなる容器形態A（以下、容器A）と、容器５に取手６と取付金具７からなる容器形態B（以下、容器B）、容器１と容器５は重量バランスにおいて取手の直線軸上で図のように対称に合致する。ザル８に取手９と可変式取付金具１０からなる器具形態C（以下、器具C）は、ザル８の滑落防止の爪１１が付き、ザル８は容器５に内包する様に合致される。
【００１５】
また、図１１と図１２の器具Cにおけるザル８は、容器Aにおける容器１と容器Bにおける容器５にも合致することができ、個人各々の調理手順の違いやその他の料理に対応し易くする。
【００１６】
器具Cにおける取手９の可変動作については、特に実施形態の一手法として説明する。図９の取手９における可変式取付金具１００の作動には、角度切替スイッチ１３に繋がる固定ピン１５を固定ピン用穴１４から引き抜き、バネ１６により定位置制御され、これらは回転軸１７を中心に回転される。この角度の切り替えは、固定ピン用穴１４を相互に切り替えることで持ち易いように角度変更できる。
【００１７】
また、器具Cにおけるザル８の網状とは、いわゆる網類にあたる「てぼ（湯きり用ふりざる）」を始め、揚げアミ（揚げ物を掬う）、揚げ物ネット（揚げ物を置いて油を切る）、蒸し用目皿（蒸し物の底上げ台座）などを指し、これら水や油などの「液体を切る」目的とした概念上の網の属性形状を使用すれば、多様な料理内容に対応できる。
【００１８】
各々の取手、３・６・９には、指を掛け易いように図１０の１２のように凹みを設け、９から６から３の順で段階的に外したり、或は６と９の組み合わせ、３と６の組み合わせという具合に、使用状況に応じて取り易いように施す。
【００１９】
また、各々の取手、３・６・９には、壁掛け穴１８を通して設けるなどし、何れの取手には位置合わせ凹凸２１を設け、取手３・６の上面側が凸、対する取手６・９の底面側を凹で合致（或は凹凸を逆も可）するようにし、図１のように容器A、容器B、器具Cを組込んだ際の取手のズレを防止する。
【００２０】
容器Aには、熱源コンロ上に置く際の安定性を計る為にコンロ安定板１９を設け、容器Bには、容器５における底面の熱伝導率を妨げない為にコンロ安定板１９を避ける様に溝２０を設け、平滑性を確保する。
【００２１】
以下、上記構成の使用手順を生麺調理で説明する。容器Aと容器Bと器具Cは、各々適宜な隙間で組込まれており、分離と着脱が可能となっている。まず、容器１と容器５に水を注ぎ、１口の熱源コンロに載せ沸騰させる。この時、容器１と容器５は略均等に加熱され、略同時に沸騰される。沸騰した容器５に合致したザル８の中へ生麺などを入れ、麺の固さ具合を計りながら茹で上がるのを待つ。その間に、盛付けの器にタレなどを投入しておく。適宜な固さの麺が茹で上がる頃合いに際して、沸騰させた容器１の湯を盛付けの器に加えてスープを作る。時間を空けずに麺を盛付けの器へ投入すれば、適宜な固さの麺と熱いスープが同時に確保できるので、おいしく生麺を食すことができる。
【００２２】

【書類名】図面　（1）

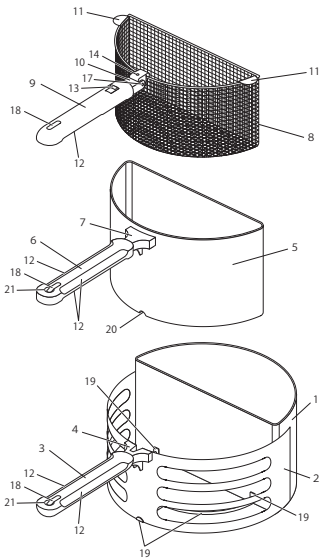
【図１】



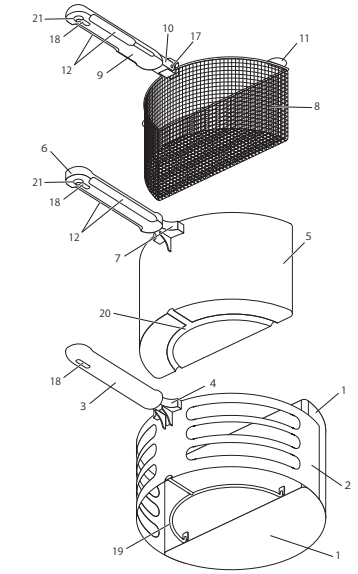
【図２】



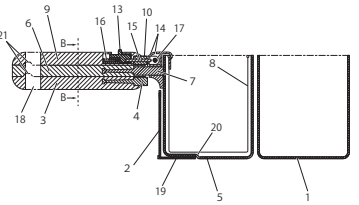
【図３】　（2）



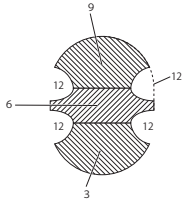
【図４】　（3）



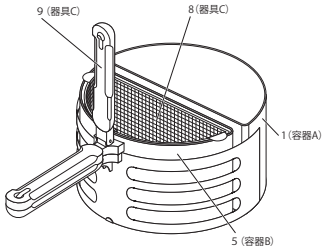
【図９】　（7）



【図１０】

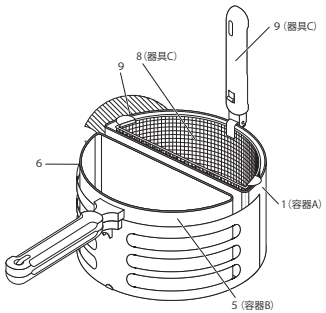


【図１１】　（8）



【図１２】

【図１３】



（１６,０００円）

【書類名】　意匠登録願

【整理番号】　Ｄ－２０１０－０３

【提出日】　平成２２年７月１６日

【あて先】　特許庁長官　殿

【意匠に係る物品】　情報端末機閲覧用かばん

【意匠の創作をした者】
【住所又は居所】　神奈川県川崎市幸区南幸町２丁目８番オーベル川崎３１３
【氏名】　片桐　靖之

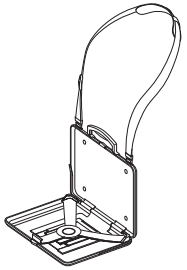
【意匠登録出願人】
【識別番号】　５０９３５１４３２
【住所又は居所】　神奈川県川崎市幸区南幸町２丁目８番オーベル川崎３１３
【氏名又は名称】　片桐　靖之
【電話番号】　０９０-９３０８-４６３６

【提出物件の目録】
【物件名】　図　面　　１

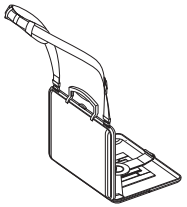
【意匠に係る物品の説明】

【意匠の説明】
本体部の拡大図面について、本体部より繋がる肩掛け帯部における省略部は、意匠的・構造的特徴について既に公知されているものと長さ以外は特段に変化を要しない（既成物汎用対応等も含む）ため、本体部の詳細説明の拡大図において帯部は省略としている。
（動作経過１～６）にかかる図表記は、理解し易い様に扉の開口角度を90°展開している。実際の端末閲覧時における最適開口角度は【本意匠を身体着装した状態における概ね最適な端末閲覧角度】を前提としており、これには、端末単体の機種特性（角度差感知機能）などの使用条件に対応するためである。尚、開口角度は無段階調整とする。
（動作経過１～６）におけるA-A拡大断面図は、４から５で端末が回転し、６でアームが延長している。５については判り易い動作説明上、割愛している。
【延長帯が伸長された状態の参考斜視図】の（延長帯が伸長された状態）とは、使用者が本意匠を肩に掛けた状態において、端末閲覧をしない状態（扉閉）時或は閲覧状態（扉開）時でも、把手部に組み込まれた昇降レバーにより、使用者の使い易い位置へ任意に昇降できる。例えば、たすき掛けした未使用時から胸部への閲覧使用時へ移動する際には、自由度が生まれ、セットし易くなる。

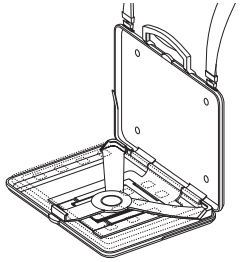
【扉を90°展開した正面側斜視図】



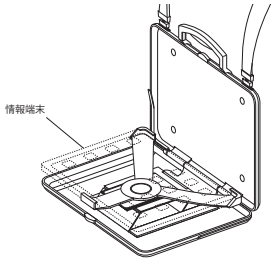
【扉を90°展開した背面側斜視図】



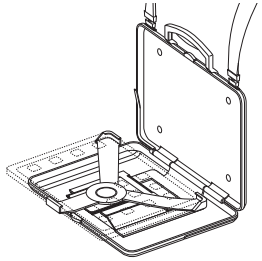
【端末を装着し扉を90°展開した拡大斜視の参考図／動作経過１】



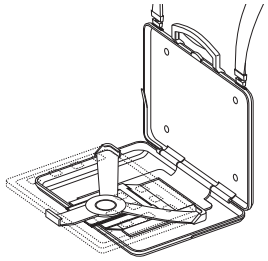
【端末を装着し扉を90°展開した拡大斜視の参考図／動作経過２】



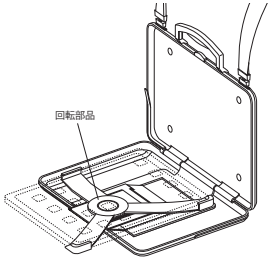
【端末を装着し扉を90°展開した拡大斜視の参考図／動作経過３】



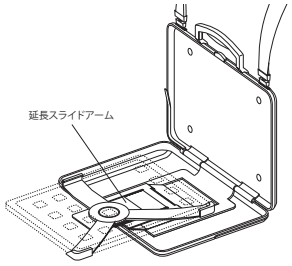
【端末を装着し扉を90°展開した拡大斜視の参考図／動作経過４】



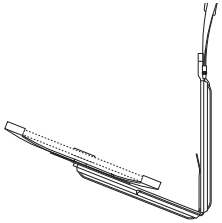
【端末を装着し扉を90°展開した拡大斜視の参考図／動作経過５】



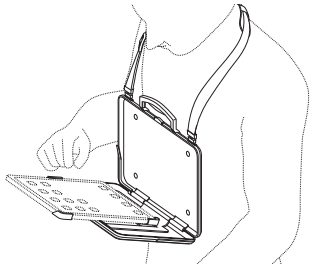
【端末を装着し扉を90°展開した拡大斜視の参考図／動作経過６】



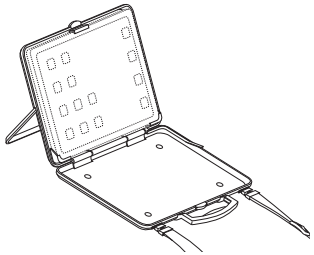
【本意匠を身体着装した状態における概ね最適な端末閲覧角度の参考右側面図】



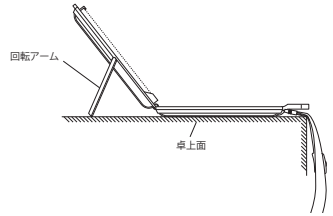
【本意匠を身体着装した状態における概ね最適な端末閲覧角度を示す一例の参考斜視図】



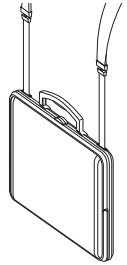
【卓上使用時における回転アームを展開した参考斜視図】



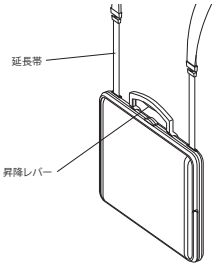
【卓上使用時における回転アームを展開した参考左側面図】



【延長帯が伸長された状態の斜視図】



【延長帯が伸長された状態の参考斜視図】



（１６,０００円）

【書類名】　意匠登録願

【整理番号】　Ｄ－２０１０－０１

【提出日】　平成２２年４月２０日

【あて先】　特許庁長官　殿

【意匠に係る物品】　乗用自動車

【意匠の創作をした者】
【住所又は居所】　神奈川県川崎市幸区南幸町２丁目８番オーベル川崎３１３
【氏名】　片桐　靖之

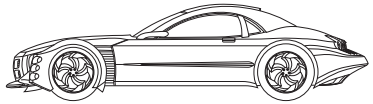
【意匠登録出願人】
【識別番号】　５０９３５１４３２
【住所又は居所】　神奈川県川崎市幸区南幸町２丁目８番オーベル川崎３１３
【氏名又は名称】　片桐　靖之
【電話番号】　０９０-９３０８-４６３６

【提出物件の目録】
【物件名】　図　面　　１

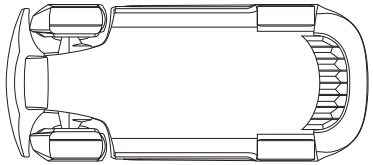
【意匠に係る物品の説明】

【意匠の説明】
右側面図と左側面図は同一にあらわれる。
参考上面（前輪可動部）斜視図は、前輪部の左折進行時における舵角回転の様子をあらわしたものであり、右折進行時ではこれと逆向き回転にあらわれる。

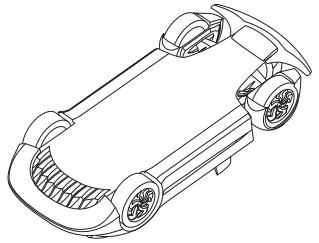
【左側面図】



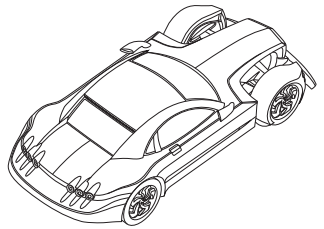
【底面図】



【参考底面斜視図】



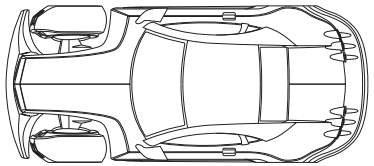
【参考上面（背面側）斜視図】



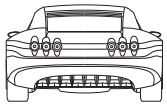
【書類名】　図面

【正面図】

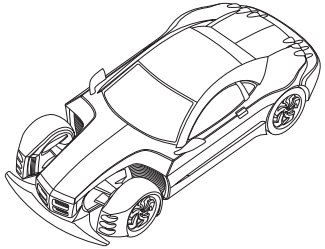
【平面図】



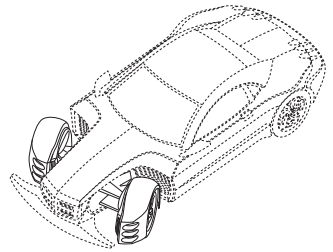
【背面図】



【参考上面（前面側）斜視図】



【参考上面（前輪可動部）斜視図】



オリジナル・カーデザイン（意匠権取得済）をCGで作成し、車内吊り及びポスター風想定でアドバタイズした。

投稿用に作成した CG。

プライベート・ワーク（http://nice-next.kir.jp/bike/image/riding_sequence4.mov）

投稿用に各々作成した CG。

投稿用に各々作成した CG。

サンプル動画（ http://nice-next.kir.jp/zgok2/image/zgok2.mp4 ）

自主企画・製造・販売。
プレイステーションなどの家庭用ゲーム機器に於けるオートバイ・ゲームに特化したコントローラー・アタッチメント。当時、操縦感覚が伴わない既存コントローラーに、バイク本来の操縦感覚を伴わせたオリジナル商品であり、実際、何台かの受注販売を行った。掲載のページは yahoo 出品時の専用ホームページに使用したもの。